

大腸がんについて

増える大腸がん！ 日本人の食生活の欧米化とともに大腸がんが増え続けています。大腸は1.5～2.0mの長さがあり、がんができた場所により盲腸がん、上行結腸がん、横行結腸がん、下行結腸がん、S状結腸がんならびに直腸がんといえます。このうちS状結腸と直腸が大腸がんの出来やすい部位です。

症状は？ 早期の癌ではほとんど症状はありません。しかし、次の様な症状が1つでもあれば、まず受診しましょう。

血便が出た	便をしてもまだ残っている感じがある
便が細くなった	何度も大便秘結になる
おなかがはる	原因不明の貧血がある

がんは大きくなるにつれて、その中心部が腐って掘れこみ出血しやすくなります。これが排便時に血液が混じる原因です。このように大事な情報を提供してくれている大便を毎日自分で観察するようにしましょう。

早期発見のためには？ 早期の大腸がんは自覚症状はなく、ほとんど便潜血を契機に発見されます。便潜血検査は、便に目で見ても分からないような出血が潜んでいるかを調べる検査で、これが陽性ですと大腸に癌、ポリープ、痔、憩室などの病気があり出血源となっている可能性がありますので精密検査が必要です。精密検査には、注腸検査といって、肛門からバリウムを注入するレントゲン検査と、肛門から内視鏡を挿入する大腸内視鏡検査（大腸ファイバー）があります。

治療法には、内視鏡的切除、外科手術があります。小さな癌でリンパ節転移の可能性がないなら内視鏡（大腸ファイバー）的切除も可能です。しかし、リンパ節転移の可能性があれば外科手術（開腹手術）が必要です。がんの手術は、がんに侵された大腸の部分とその周辺のリンパ節を摘出します。

大腸がんは、早期のうちに発見し治療すればほぼ100%近く完治します。早期の大腸がんは自覚症状がないため、早期発見のためにぜひ大腸がん検診を受けましょう。

